

概要報告

実施期日	8月2日(火)
部会名	中学校 美術部会

テーマ 『自分の中身・成長を感じる』～意欲の高まりを目指し、自分を表現する～

提案概要

入学当初、中学校1年生の美術の授業で、つくことは好きだが、描くことは好きではないと答える生徒が多かった。小学校での図工に関するアンケートでも「工作は好きだが、絵は上手く描けないから楽しめなかった」や「絵の具が特に苦手で、色をつける絵は、上手く思い通りにならないのが嫌だった」との回答が大半を占めた。そこで、思い通りに表現できる技術を身につけさせ、「よく見て考えをもち、表現したい」、「思いをもち、深く考え表現してみよう」、「人がなんて言うかでは無く、自分では思った通りに表現できた」と生徒が思えるような学習計画を立案し実践した。

具体的な内容として、1学年のはじめに、グループでアニメーション制作を行った。この授業で、表現することへの苦手意識をなくし、生徒が互いに教えあえる環境づくりをした。また色彩の理論にもふれ、明度などの世界を理解させた。つづいて思い通りに表現できる技術を身につけさせるために、明度の理論をいかし、基本的な技能の根幹であるデッサンを学ばせた。身近で履きなれた上履きを題材に選び、表現の仕方や物を深く見つめてテーマを自分で設定する力を身につけさせることをねらいとした。また、1年生の最後には名画の鑑賞を行い、2年生で行う名画模写や風景画につなげた。模写では、特徴を捉えたり、表したい感じを探したり、色彩の効果を生かしたりしながら表現させた。そして3年生では、1、2年時で身につけた色彩表現をもとに、自らが発想したテーマを追求させ『成長した自分』という題材で、自分の手をモチーフにパステルや絵の具で、自分を表すという課題を行った。

3年間を通じた取組の結果、「思いをもち、深く考え、表現してみよう」とする生徒の声が増えてきた。1年時の始めに3年間の指導目標として掲げた「人になんて言われるかではなく、自分では思った通りに表現できた」ことを感じられる生徒も増えてきた。一方、「描くこと」の基本的な技能がまだ身につけておらず、描くことに自信がもてないことから自分の発想を膨らますことができない生徒もいる。今後は「描くこと」に「つくること」も上手くリンクさせ、描画に苦手意識がある生徒にも美術の楽しさや自分らしく表現することの素晴らしさや達成感を味わわせたい。題材開発だけでなく、指導法や授業の展開の「不断の見直し」を日常的に心がけていきたい。

質疑概要

- Q：鑑賞のところで、1分間で意見を出し合うという話があったが、その時間で生徒は自分の意見を伝えることができるのか？
- A：伝え合う時間は1分だが、その前に10分から15分の考える時間を確保している。
- Q：パステルの使い方、効果などはどのように指導したか？
- A：ドガやルドンなどの作品を写真で提示したり、教師が描き方などを見本で示したりした。生徒にいろいろ体験させ、自分自身でパステルの効果を発見させた。また、スケッチブックに描かせたことで、過去に発見した効果を思い出させることもできた。
- Q：3年生にもなると目が肥えてくる。それだけに、思い通りに表現できないと消化不良で終わってしまう生徒もいたのではないかと？
- A：確かに存在した。そのような生徒には授業で書かせる振り返りをもとに対応した。振り返りを読んで、次の授業の指導に生かしたり、意識的に声をかけたりしていた。

研究協議概要

協議1：学習意欲を高める指導のあり方（題材や指導法など）、生徒が主体的に取り組める題材を中心に協議が行われた。

- ・陶芸で箸置きをつくった。使うだけでなく、保護者の方にプレゼントするという目的意識をもって制作させた。また箸置きを入れるパッケージのデザインも行った。
- ・手ぬぐいにデザインしたゴム判を押し、お気に入りの手ぬぐいをつくる授業を行った。その手ぬぐいは体育の剣道で実際に使用するもので、剣道の授業で気合が入るデザインを目指し制作した。
- ・食は生活の根幹であることから、興味を示しやすい。そこでどんぶりを制作させた。制作したどんぶりで、実際に調理実習でラーメンをつくり食べる活動を行った。20歳になった卒業生からも、まだそのどんぶりを使っているなどの嬉しい報告もあった。
- ・鑑賞では生徒が実際に参加しながら活動できる授業を行った。葛飾北斎の富嶽三十六景を題材に、絵を見せる前に、自分が画家だったらどの位置に富士山を描くか？など生徒自身に考えさせた。

協議2：効果的に学習が深まる年間指導計画について

- ・1学年では指示的な学習課題、学年があがるにつれ選ぶことができるような発展的な課題に取り組んでいる。
- ・学校行事や各教科の単元に合わせて題材を選定する。合唱祭前にCDジャケットのデザインを描かせたり、修学旅行前にしおりの表紙絵を描かせたり、社会の学習で葛飾北斎や俵屋宗達を学習する前後に鑑賞の授業を意図的に計画したりした。

まとめ概要

美術の授業を通して、生徒にどのような力を身につけさせるか、またどのように成長して欲しいか、とてもよく伝わる提案であった。普段の生徒の様子をしっかりと観察し、課題意識をもって日々の授業に取り組んでいくことの大事さを改めて考えさせられる内容であった。質疑応答では、生徒が主体的に取り組める題材について活発な議論が行われ、学校に一人、多くて二人しかいない美術科教員にとってとても有益な情報交換の場になった。他の先生の得意な題材や指導法などを知ることができ、これからの授業に大いに参考となった。

協議の柱の二本目である「効果的に学習が深まる年間指導計画について」は、時間の関係上、あまり深く話し合うことができなかったが、指導すべき基本的な事項をふまえ、生徒が主体的に取り組む、美術が楽しいと感じさせる3年間を見通した指導計画を考案していかなければならない。生徒の学習をより深めていくための学習計画の作成は、美術科教員一人ひとりにとって大きな課題であるが、学習計画の質的向上は、美術指導の醍醐味であろう。